

平成 29 年度 福島大学人間発達文化学類

編入学・学士入学試験問題

【小論文】 90 分

【資料 1】【資料 2】【資料 3】を読み、すべての問いに答えなさい。

平成 29 年度 編入学・学士入学試験問題

学類名	人間発達文化学類	科目名	小論文
-----	----------	-----	-----

問題 I 資料 1 は中室牧子著『「学力」の経済学』（ディスカヴァー・トゥエンティワン、2015 年）の一部です。「子どもをほめる」ことについて、著者の考え、およびそれに対するあなたの意見を 400 字以内で述べなさい。

【資料 1】

フォーサイス教授らは、自分の授業の履修者のうち、最初の試験で成績の悪かった学生たちをランダムに 2 つのグループにわけ、毎週、メールで別のメッセージを送りました。

ひとつ目のグループ（=処置群）には、宿題にかんする連絡とともに（「あなたはやればできる」というような）自尊心を高めるようなメッセージを送りました。一方、残りのグループ（=対照群）には自尊心を高めるようなメッセージは送らず、かわりに宿題に関する事務的な連絡や、個人の管理能力や責任感の重要性を説くメッセージを送りました。

この結果、自尊心を高めるメッセージを受け取ったグループの学生は、受け取らなかったグループの学生よりも、期末試験の成績が統計的に有意に低かったことが示されました。この研究は、学生の自尊心を高めるような介入は、学生たちの成績を決してよくすることはないことを示しています。また、このような介入が、すべての学生に悪影響だったわけではなく、とくにもともと学力の低い学生に大きな負の効果をもたらしたということも明らかになっています。

つまり、悪い成績を取った学生に対して自尊心を高めるような介入を行うと、悪い成績を取ったという事実を反省する機会を奪うだけでなく、自分に対して根拠のない自信を持った人にしてしまうのです。

「あなたはやればできるのよ」などといって、むやみやたらに子どもをほめると、実力の伴わないナルシストを育てることになりかねません。とくに、子どもの成績がよくないときはなおさらです。

しかし、私は子どもをほめてはいけないといっているわけではないということは、ここであらためて強調しておきたいと思います。重要なのは、その「ほめ方」なのです。

コロンビア大学のミューラー教授らは、ある公立小学校の生徒を対象にして「ほめ方」にかんする実験を行いました。6 回にわたるこの実験の結果わかったことは、「子どものもともとの能力（=頭のよさ）をほめると、子どもたちは意欲を失い、成績が低下する」ということです。

ミューラー教授らの実験では、子どもたちをランダムに 2 つのグループに分けました。両方のグループの生徒が IQ テスト（1 回目）を受験しましたが、ひとつのグループの生徒に対しては、テストの結果がよかったときには「あなたは頭がいいのね」と、子どもらのもともと

の能力を称賛するメッセージを伝えました。一方もうひとつのグループに対しては、「あなたはよく頑張ったわね」と、努力を称賛するメッセージを伝えました。

その後、ミューラー教授らは、同じ子どもたちに、かなり難しめのIQテスト(2回目)を受けさせました。さらにはその後、最初に受けたのと同じ程度のIQテスト(3回目)を受けさせ、結果の推移を調べました。すると、もともとの能力をほめられた子どもたちは、成績を落としてしまったのに対し、努力をほめられた子どもたちは成績を伸ばしたのです。

ほめ方の違いは、子どもたちの取り組み方にも影響を与えました。

「頭がいいのね」ともともとの能力をほめられた子どもは、2回目の難しめのIQテストを受ける際、この試験のゴールは「何かを学ぶこと」ではなく、「よい成績を得ること」にあると考え、テストでよい点数が取れなかったときには、成績についてウソをつく傾向が高いことがわかったのです。

また、彼らは、よい成績が取れたときはその理由を「自分は才能があるからだ」と考えたように、悪い成績を取ったときも「自分は才能がないからだ」と考える傾向があったことがわかっています。

一方、「よく頑張ったわね」と努力した内容をほめられた子どもたちは、2回目、3回目のテストでも粘り強く、問題を解こうと挑戦を続けました。努力をほめられた子どもたちは、悪い成績を取っても、それは「(能力の問題ではなく)努力が足りないせいだ」と考えたようです。

ミューラー教授らの論文タイトルどおり、「能力をほめることは、子どものやる気を蝕む」のです。

子どもをほめるときには、「あなたはやればできるのよ」ではなく、「今日は1時間も勉強できたんだね」「今月は遅刻や欠席が一度もなかったね」と具体的に子どもが達成した内容を挙げるのが重要です。そうすることによって、さらなる努力を引き出し、難しいことでも挑戦しようとする子どもに育つというのがこの研究から得られた知見です。

(出題者注) 出題の都合上、原文を一部変えています

平成 29 年度 編入学・学士入学試験問題

学類名	人間発達文化学類	科目名	小論文
-----	----------	-----	-----

問題Ⅱ 資料 2 は中島義道『悪について』（岩波新書 2005）の一部です。以下の文章の内容をふまえ、必要であれば具体例を交えて、メディア報道に関するあなたの見解を 400 字以内で述べなさい。

【資料 2】

この部分に記載されている文章については、著作権法等の問題から公表することができませんので、ご了承願います。

平成 29 年度 編入学・学士入学試験問題

学類名	人間発達文化学類	科目名	小論文
-----	----------	-----	-----

問題Ⅲ 資料 3 は、平田オリザ著『わかりあえないことから コミュニケーション能力とは何か』（講談社現代新書、2012 年）の一部です。「コミュニケーション能力」について、筆者の考えに対するあなたの考えを、あなた自身の経験を例にしながら、400 字以内で述べなさい。

【資料 3】

この部分に記載されている文章については、著作権法等の問題から公表することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法等の問題から公表することができませんので、ご了承願います。

(出題者注) 出題の都合上、原文を一部変えています

平成29年度入学試験 小論文「出題意図」

(入試情報公開用)

人間発達文化学類 編入学および学士入学

人間発達文化学類のアドミッション・ポリシー「教員をはじめ地域や企業などで活躍できる広義の教育者（人間発達支援者）を目指す意欲を持ち、卒業までに、理解し探究する力、人や文化と関わる力、解決し創造する力、教え育む力、の4つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます」をふまえつつ、資料を与え、1,200字程度で論述させることにより、受験者の理解力・思考力・表現力を総合的に判断する。

問題Ⅰでは、「子どものほめ方」に関する文章を読み、著者の主張を理解し説明した上で、自分の考えを簡潔に表現する能力をみる。

問題Ⅱでは、メディア報道に関する文章を読み、与えられた情報に対し批判的かつ客観的に考察する能力をみる。

問題Ⅲでは、コミュニケーション能力について、筆者の主張を理解したうえで、自分の考えを述べる能力をみる。